

アクティブ・ラーニング指導用ルーブリック

アクティブ・ラーニングの視点から、PDCAサイクルに基づき、**不断の授業改善**を図っていくことが、児童生徒の学力向上につながる。そこで、授業を自己・他己評価する際の基本的な5項目を**指導用ルーブリック**として示した。

1 子供が目標を理解し、課題に興味をもって取り組んでいたか。 【目指すべき目標・評価規準の設定等】

- 指導計画に基づき、適切な目標(資質・能力の三つの柱に基づき「何ができるようになるか」)が設定できたか。
- 本時の目標が達成できているか評価できるような評価規準が設定できたか。
- 子供の学習意欲を高められるような導入場面であったか。(学習問題や課題の工夫、提示方法の工夫など)

2 子供が自分の考えを表現することができていたか。 【主に主体的な学びの視点】

- 本時の課題を正しく伝えることができたか。
- 自分の考えを表現することができるように、(主につまずいている子供たちへの)支援方法を準備し、実行することができたか。
- 自分の考えを表現することができるように、適切な時間や場の設定・ワークシート等の準備ができたか。
- 学習活動は、目標の達成につながっていたか。

3 子供が友達の発言を受け止め、自分の意見と比べていたか。 【主に対話的な学びの視点】

- 子供たちの考えを広げ深められるような、学習形態(個人、ペア、グループ、全体)は設定できたか。
- 子供たちの考えを広げ深められるよう、教具(タブレットPC・ホワイトボード・ワークシート・具体物等)を工夫し用いていたか。
- 子供たちの考えを板書(ホワイトボード等で示すことも含む)できたか。

4 子供が思考・判断・表現する活動を通して 「見方・考え方」を働かせていたか。 【主に深い学びの視点】

- 子供たちが本時に働かせるべき「見方・考え方」は、明確であったか。
- 子供たちが「見方・考え方」を働かせることができるような、学習活動を設定することはできたか。
- 子供たちが働かせていた「見方・考え方」を可視化する(板書・口頭等)ことはできたか。

5 子供が「分かったこと」「やったこと」や「できたこと」など、 学びの成果や課題を実感していたか。 【学びの評価・振り返り】

- 評価規準・評価計画に基づき、本時の子供たちの変容を評価することができたか。
- 評価するための方法や場面を設定することができたか。
- 子供たちが本時の学習を振り返ることができるような場面が設定できたか。

- 本ルーブリックは、平成28・29年度戸田市アクティブ・ラーニング研究員による授業研究会の協議を基に作成しました。(協議については「平成29年度指導の重点・主な施策『アクティブ・ラーニング6つのチェックポイント』」を基に実施)
- 本ルーブリックは、「文部科学省委託事業『教科等の本質的な学びを踏まえたアクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善のための実践研究』」報告書内に示されている。
- 『指導用ルーブリック』・『自己評価用ルーブリック』・『資質・能力ルーブリック』の3つのルーブリックのうち、「指導用ルーブリック」のレベル2の内容である。